



山口 舞 さん (佃町)

3人目の子どもですが、ここでいただいた本が子どもたちにとって1番のお気に入りです。上の子どもたちには、今も読み聞かせをしています。最初、子どもにどんな本を読ませたらいいのか分からなかったのですが、ここで本をいただいたり、お勧めの本を紹介してもらったりして、とても助かっています。



ブックスタートのときに手渡されるブックスタートパック。コットンバックや絵本、絵本ガイドブック、図書館利用申込書などが入っています



水の郷1階キッズルームでのブックスタート(6月27日の様子)。全国では約半数、県内では約8割の自治体で実施されています

ブックスタートのボランティアの皆さん。保護者や赤ちゃんに絵本を開く楽しさを伝えます。代表の松藤さんは前列中央。ボランティアスタッフを募集中です



「絵本の読み聞かせは勉強ではないので、どこから読み始めてもいいし、どこでやめてもいい。絵本をさわって遊んでもいいし、なにより、皆さんも赤ちゃんと一緒に絵本を楽しんでください」と保護者に話す松藤さん。だんだん雰囲気や和んでくると、「熱が出たときはどうしたらいい

か…」など、今度は保護者から子育ての悩みを聞いていました。  
8月のブックスタートは29日(木)、午後1時30分からサンブリッジで開かれます。また市立図書館では、絵本の「おはなし会」を毎週土曜日開催しており(詳しくは12ページの「図書館ニュース」、特に第4土曜日の午後2時30分からは、本館で0歳から2歳児を対象に開いています。興味のある人は、ぜひ遊びにきてください。  
ブックスタートの問い合わせは、市立図書館本館(☎74・4111)まで。



ボランティアのスタッフが、赤ちゃんに保護者に絵本を開く楽しさを伝えます

# ブックスタート 10周年

## 絵本だけでなく、絵本を開く楽しい「体験」もプレゼント

### 4か月の赤ちゃんに読み聞かせ

ブックスタートは、毎月1回、水の郷などで行われ、赤ちゃんの4か月児健診後に実施されています。

「こはの意味を理解することができない赤ちゃんに絵本を広げて分かるのか」と疑問を持つ人もいます。

ブックスタートで読み聞かせが始まると、赤ちゃんは絵本をじっと見つめたり、指さしたり、読んでくれる人を見つめ、その声に耳を澄ませたりと、赤ちゃんなりに絵本を楽しみます。

今年5月、市が行った3歳児健診でのアンケートでは、「読み聞かせ」の習慣があるという人が全体の95%。今でもブックスタートでもらった

ブックスタートを知っていますか。赤ちゃんに保護者に絵本を開く楽しい体験と一緒に絵本を手渡し、心ふれあうひとときを持つきっかけづくりを行う活動です。  
平成15年に、旧柳川市で始まったブックスタートは、今年8月で10年目を迎えました。この間、約5000人の赤ちゃんに絵本が手渡され、家庭などで、親と子の絵本を通してふれあいが広がっています。

絵本を活用しているという人が86%もいました。

各家庭で、ブックスタートがきっかけになり、読み聞かせの習慣ができていくことがうかがえます。

### ボランティアが支えるブックスタート

市のブックスタートを支えるのが、ボランティアの皆さんです。

ボランティア代表の松藤直子さん(六合)は、地元の幼稚園や保育園で読み聞かせをしていたことが、ブックスタートのボランティアに携わるきっかけだったそうです。

「ただ絵本を手渡しだけという市町村もある中で、柳川市ではボランティアの協力で、保護者や赤ちゃんたちと1対1の対面で語りかけることができ、すばらしい活動ができ